2016 年度上智大学外国語学部語劇祭
イスパニア語劇　演目

Historia de cómo nuestro amigo Panchito González se sintió responsable de la epidemia de peste bubónica en África del Sur

『優しいパンチートの“愉快な”営業』

原作　Osvaldo Dragún

ゲネプロ:12 月 7 日（水）　開場　18 時 45 分　開演　19 時

本公演　:12 月 11 日（日）　開場　12 時 45 分　開演 13 時

あらすじ

主人公パンチートは久しぶりに 2 人の友人に出会い、彼らとカフェで過ごしていた。そこにペストの流行を知らせる号外売りが通りかかる。その姿を見てパンチートは自身の過ちを思い起こし始めるのだった…。

イスパニア語劇 El Gallinero

イスパニア語劇はイスパニア語学科創設とともに 1957 年に誕生しました。半世紀の歴史の中では休止していた時期もあり、現在の El Gallinero は 2009 年に復活したものです。私たち El Gallinero は、演劇を通してスペイン語やスペイン語劇圏の文化に触れることを目標にしています。

今年は 2 人の 1 年生が入部しました。彼らの初舞台であるオープンキャンパスでの公演を終えてから、語劇祭の準備に本格的に取り組み始めました。El Gallinero の現在の部員は 1 年生 2 人と 3 年生 2 人、そして 4 年生 1 人という少人数ですが、皆で協力して劇を創ってきました。楽しんで頂けたら幸いです。イスパニア語を学習し始めて 8 ヶ月の部員たちの成果もぜひご覧ください。

顧問挨拶

奇跡的に今日の公演日を迎えています。わずか 4 人の部員でこの公演を実現させるのは不可能にも思えましたが、メンバーはやり遂げました。まずは、4 人の"戦士たち"に心からの拍手を送ります。

今回の作品のテーマは、人種差別です。この作品が書かれた 1957 年から半世紀以上も経過しました。この間、人類は、偏見のない、互いの文化を尊重しあう世界の実現を目指して来たはずでした。この作品を取り上げることに決めたとき、人種偏見をめぐる台詞をそのまま用いることに躊躇を覚えましたが、差別社会をめぐる問題はまるで解決を見出していないことから、ドラグンのメッセージは有効であると考えました。更には、差別意識の構図自体が 50 年前より複雑になっています。どうにかしたい、この世界を変えたいとの思いはみんなが持ってるはずですが、何がこれを阻むのか？目の前の課題-パンチートの場合は家族を食べさせなければならないという父親の義務-が私たちの行動に制約を与えます。この舞台が、こうしたジレンマの中で私たちはどう生きるかを考えるきっかけになることを願います。　**顧問　吉川恵美子**

演出挨拶

本作品は展開が早いため衣装はシンプル、大道具はブロック 6 つのみを使います。一見、無機質なブロックですが、場面ごとに異なる側面を見せる工夫をし、雰囲気造りに気を配りました。また、主人公以外 1 人 2 役以上を演じているため、小道具に拘りました。人物像を特徴付ける複数の小道具とブロックの配置に注目してご覧ください。　**部長　高橋さよ**

キャスト

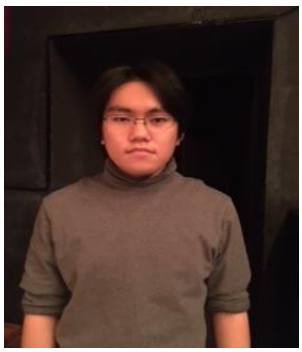
パンチート Panchito（1 年生 深井司）

主人公。通りがかってきた号外売りの姿を見たことをきっかけに、自分が引き起こしてしまったペスト大流行の顛末を思い起こしていく。

俳優 1 Actor 1（3 年生 村上莉奈）

パンチートの友人の 1 人。パンチートの記憶の中で、代議士・イタリア人の上司・肉売り・弁護士・従業員・市役所職員・画家・船員・黒人・号外売りを演じる。

俳優 2 Actor 2（1 年生 保倉宜幸）



号外売り。パンチートの記憶の中で、イギリス人の上司・肉売り・先生・学者・同僚・市長・画家・船長・黒人を演じる。

女優 Actriz（3 年生 高橋さよ）

パンチートの友人の 1 人。パンチートの記憶の中で、妻・画家を演じる。

ニュースキャスター （4 年生 早川真紀）
映像出演。
ニュースで南アフリカでのペスト流行を知らせる。

スタッフ

顧問 吉川 恵美子 （上智大学教授）

演技・スペイン語指導 吉川 恵美子 （上智大学教授）

団体責任者・演出 高橋 さよ（3 年）

字幕・音響作成 深井 司 （1 年）
保倉 宜幸 （1 年）

字幕・音響操作 前川 夏穂 12 月 7 日担当 （3 年）
吉川 恵美子 12 月 11 日担当 （上智大学教授）

大道具・小道具・衣装 語劇部員

パンフレット作成 村上 莉奈 （3 年）